

令和4年度 第4回 丹波市男女共同参画審議会 会議録

日 時：令和4年10月17日（月） 午後1時30分開会～午後3時30分閉会

場 所：氷上住民センター 実習室

出席者委員：中里英樹会長、北村久美子副会長、北尾真理子委員、足立佳菜子委員、足立篤夫委員、
足立美樹委員、植野さやか委員、大木玲子委員、荻野圭裕委員、小谷菜絵委員、村上幸
子委員、熊野研吾委員、足立敏行委員、中川ミミ委員

欠席者委員：中村衣里委員

事 務 局：丹波市：まちづくり部長、人権啓発センター所長、人権啓発センター男女共同参画推
進係長、人権啓発センター職員
株式会社名豊

傍 聴 人：なし

議 事：（１）第4次丹波市男女共同参画計画（原案）について

資 料：【資料1】第4次丹波市男女共同参画計画（原案）
【資料2】前回審議会意見対応表
【資料3】第4次丹波市男女共同参画計画 数値目標（案）

1 開会

- ・委員15名中14名の出席により、会議が成立していることを確認（審議会運営規則第3条第2項）
- ・資料確認

2 会長あいさつ

会長

前回の会議から20日程度しか経っていないが、今年度は計画を策定するという重要な年に当たっていて、前回たくさんの意見をいただき、短い時間でたくさんの修正追加等をしていただいた。事前の打ち合わせでも、さらに修正をお願いしたことで、皆さんにもタイトな日程でご確認いただいたと思うが、事務局の方からご説明があると思うので、引き続きご協力のほどお願いをしたい。

【会議公開・非公開の決定について】

審議にあたっては、特段個人情報特定されることはないため、公開とする。また、議論を進めていく中で個人が特定されるような内容となった場合には、非公開とする旨を確認する。

3 議事

- （１）第4次丹波市男女共同参画計画（原案）について
事務局より資料1に基づき説明（第2章まで）

【意見要旨】

委員

4 頁、④「包摂的」という意味がよくわからない。私が調べたら「一定の範囲の中に包み込むこと。例えとしては、知識をその中に包摂する」というような使い方をするらしいが、これは一般的にはあまり使わない言葉だと思うので、注釈をつけておかれたらどうかと思う。

会長

これはインクルーシブという言葉で、無理やり包摂的という日本語にしているため、逆に幅広い意味を持ってしまっていて分かりづらい。注釈はあった方が良いという気がする。色々な人を取り込むというか、もらさないというような意味だと思う。

副会長

1 点目、4 頁の注釈について、「SDG s」に注釈の「3」がつくと見間違えるような気がするので、注釈の入れ方を考えていただきたい。また、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」については、括弧ではなくカタカナの後ろに注釈がついていた方が良いと思う。

2 点目、10 頁のグラフで、丁寧に数字が入っているが、「非親族世帯」の幅が狭いので数字が「その他親族世帯」と一緒になっていて見にくいように思う。

3 点目、全体をとおして、西暦と和暦が統一されていないので、どちらかで合わせていただきたい。

4 点目、23 頁のグラフで、2 番目・3 番目の項目の隙間を開けて見やすくするべき。下に十分なスペースがあるので、文章の間をあけてわかりやすくした方が良いと思う。

会長

修正してほしいということではないが、内容に関して気になったことについて申し上げる。

9 頁、(2) 統計データ、①少子高齢化の進行の「出生数及び合計特殊出生率の推移（丹波市、全国、兵庫県）」のグラフについて、丹波市の合計特殊出生率が 2020 年は 1.08 になっており、数字上はかなり大きな変化となっている。私は人口学の授業なども担当していて、合計特殊出生率の計算練習を学生にさせたりしているので、この数字の背景を色々考えるところがある。

すぐに答えがないかもしれないが、この現象についてもう少し分析されているものはあるか。下の「高齢化率と年齢 3 区分別人口（丹波市）」のグラフで、生産年齢人口が 15～64 歳とおおざっぱなのだが、子どもを産む層の数が分かるような図がもし公表されているのであれば、記載されていた方がその背景がわかりやすいと思った。

というのは、合計特殊出生率は基本的には年齢構成の影響を受けないように細かく年齢層を分けて出した数字なので、その年齢層が少ないと少なくなってしまうというような数ではない。ただ、あまりにも少ないと、その年その年の調査の変動が大きな影響を受ける。たまたまこの 2020 年が低くなったという可能性が、少ない人口のところだと反映されることがあり得る。つまり、20 代後半～30 代、40 代位の人口層がかなり小さい層になっていると、こういう数字が反映されすぎている可能性があるのかと思ったので、生産年齢人口自体が減っているというのは図からも見えるし、特に子供を産む年齢層の人の小ささが影響しているという可能性があるからそう思った。

まとめると、市で公表されているデータはあるのかということと、もう少し細かな年齢層別の表

があるのかということである。今まで言っていなかったのに、急に対応してほしいということではないのだが、質問として出したい。

委員

13 頁「イ 自治会長に占める女性の割合」は県内 25 市中 22 番目となっているが、15 頁「エ 管理職に占める女性の割合」では県内 29 市中 25 番目となっている。どちらが正しいのか。それともどちらかがデータが取れなかったからこんな数字になったのかどう考えられるのか。もし合わせるとしたら 29 市が正しいのか 25 市が正しいのかどちらかわからないが、それとも他に理由があるかもしれないが、どうか。

もう一点、23 頁「イ 女性の管理職登用の推進にあたっての課題について」で、5 項目目「管理職となることに意欲的な女性従業員がいない（少ない）」背景は何かという質問が前回の会議で出ていたかと思うが、今回の資料で追加された「しかし」からその理由を書いているというふうに解釈したら良いのか。

事務局

その通りである。

また、県内他市との比較の数値について、13 頁の下グラフ「自治会長に占める女性の割合（令和 3 年度県内市との比較）」を見てもらうと、グラフの枠外に「神戸市、西宮市、朝来市、穴栗市は調査実績なし」と記載している。

次に、注釈等については「包摂的」を含めて検討・修正の方は考慮していきたい。

そして、合計特殊出生率等の数値について、直近 2020 年が 1.08 であることは確認が取れているのだが、ご指摘いただいた分析については確認が取れていない。実際、市の方でもこの直近の 2020 年の数値について、分析がしてあるかということも含めて確認を取りたいと思う。

会長

13 頁、4 市が調査実績なしということについて、確かにグラフの下には書いてあるのだが、本文中にも「調査実績のある 25 市中」という記載があるといいと思う。

事務局

ご指摘の通り、本文中にもわかりやすいように「調査実績のある 25 市中」と修正する。

会長

25 頁、（４）地域団体ヒアリング調査・市民ワークショップの結果、「ア 地域づくりについて」で、「公民館に女性トイレをつくった」とあるが、事情を知らない人が読むと、背景がわかりづらい感じがした。これは元々共通のトイレということだろうか。

事務局

女性トイレ、男性トイレではなくて両方が使えるトイレの環境であったが、分けたことで「使いやすくなった」という意見がでたとのことである。これまでなかなか入り込めなかった話し合いの場に女性委員が入って公民館を考える会となったことで取り組んだ事例である。

会長

どちらかというと男性利用だけを想定したようなトイレで、女性が使いつらいということか。実際にこのような意見がでたということを記載することで良いのだが、「誰でも使えるトイレ」を設置するような方向性が社会的にある中で、この表現が出てきていることが少し気になった。みんなが使いやすくなったという流れが、そこを気にせず使えるようなトイレという方向性もあるので、そこの整合性が少し気になった。この表現自体は意見として出たままなのでそのままが良いと思うが。実際に障がい者用トイレということではないのか。

副会長

ぱっと開けたら男子用小便器になっていて、その横に個室があったりして、女性がぱっと開けたら男性が立っているというような公民館がまだまだある。まず入り口を分けてもらうことだけでも、ずいぶんと住民にとってはホッとするような、まだまだそんな状況である。おそらくその辺りの事情ではないかと思う。なかなか難しい表現だと思う。

会長

なかなか難しい。「みんなにとって使いやすくなった」という実際の素直な感想の表現なので。

委員

23 頁、「イ 女性の管理職登用の推進にあたっての課題について」の文中、「仕事を優先することができない環境」と記載されているが、それを読んだだけでは、優先できない環境とは何だろうと思ってしまった。19 頁、「オ 就労をしている人の 1 日あたりの「家事」・「育児」・「介護」の時間」のグラフで、男性の平日は「家事」・「育児」・「介護」の時間が「ほとんどない」の割合が 27.6%だが、女性は「3～4 時間」の方が 21.8%、「5 時間以上」も 19.9%で、就労しながら家事・育児・介護を担っている方が多いために、管理職になろうと思ってもなかなかない環境であるというのは、ここで表されていると思う。言葉として「仕事を優先することができない環境」とぼやっと書かれるのではなくて、「家事」・「育児」・「介護」の時間を女性は多く使っている割合が高いので、そういう環境からこのようになっていると具体的に書いていただいた方がわかりやすいかと思う。

会長

本文にはできるだけ背景を書いていたきたいとお願いしていたが、なかなかデータがない部分は書きづらく、こういう表現になったと思うが、今ご指摘いただいたように、同じ調査の中から分析できることがあると思うので、その部分についてはもう少しだけ具体的にしても良いかと思うがいかがだろう。

事務局

22 頁、②事業所調査、「ア 女性管理職登用についての考え方」の本文中、「女性は家事や育児・介護などの負担も大きく、管理職に就くのは難しい」と“思わない”割合よりも、“どちらともいえない”が高くなっており、仕事と家事等の両立が管理職に就く上での支障になっていると感じてい

る事業所が約半数あります」という、この流れを受けて次の頁で課題を記載しているような流れになっている。

会長

そういう流れだとは思うのだが、23 頁で「しかし」という文章を追加していただいたので、その「仕事を優先することができない環境」という漠然としたところについて、19 頁のデータで出ていることから「家庭における家事・育児・介護が女性に偏っている」と書くと、すでに前述されている内容と整合していて勝手に解釈を変えたわけではないのでいいかと思う。

事務局

19 頁は市民の意見、22、23 頁は事業所の意見で、28 頁の（6）課題のまとめについては双方の結果を受けて記載した。前回の会議でもご指摘を受け、「このような現状があつて、課題はこれ」という形で、この後に説明をする具体的な施策であつたり、市民・地域、事業所の取組であつたりを、どのようにして行ったら良いかという流れになっている。先ほどご指摘いただいたところは修正をさせていただきたいと思う。

委員

難しいかもしれないが、27 頁、（5）第 3 次計画の成果について、NO. 4「学校管理職に占める女性管理職の割合」のような具体的な項目と、NO. 1「社会全体の中で「男女平等」になっていると考える人の割合」のような抽象的な項目がある。これはどこのデータに基づいてこういうことになるのか、わかる範囲内で確定的な根拠や出典が記載されていたらもっと信憑性が出ると思うが、いかがだろうか。抽象的な項目は、おそらく市民アンケートやヒアリングが根拠になっていると思うのだが、備考欄を設けて出典を記載した方が、説得力があるのではないかと思う。

会長

もともと数値目標として提示されたものだが、そこには出典の記載はあるか。

事務局

記載していない。第 3 次計画の冊子、43 頁に数値目標の一覧があるが、そこにはどこから出たということは記載をしておらず、「市民意識調査結果等などによる意識の割合や定期的な統計調査による数値、第 2 次丹波市総合計画等の他の計画に掲げる目標などから設定しています」という文章を記載している。年次報告書には算出方法、考え方等入れているが、計画の本文には入っていない状況である。

会長

計画の中に「出典」があった方が良い気がするが、いかがか。

事務局

すべての項目に対して書き込めるかどうかはわからないが、こういった調査、こういった計画から出てきているといったところは工夫して盛り込むような形で検討したい。

委員

28 頁以降の（6）課題のまとめは、次につながるステップということで非常に重要なポイントかと思うが、30 頁、基本目標 4「健やかに安心して暮らせる社会づくり」の②について、男女共同参画計画との関係性があまり読み取れなかった。何らかの背景があつての抽出だと思うので、ここの表現だけ少し気になった。

委員

先ほだのご意見について、30 頁、基本目標 4 の②が、28 頁の NO. 19 についての課題として反映されているのだと思うが、男女共同参画に関係する言葉が入っていたらもう少しわかりやすいのではないか、ということだと思う。「心も体も元気で過ごしましょう」という文章だけではなく、例えば、「DV やハラスメントがなく」という言葉を入れると、もっと男女共同参画との関係性が見えてきやすいかと思う。

委員

28 頁の NO. 14 について、「週労働時間 60 時間以上の労働者の割合」が、直近の現状値が 2.6% で、目標値が 5.0% となっているが、60 時間以上の割合を減らすのではないのか。目標が 5.0% と増えているのはなぜか。

事務局

基本目標 4、②については、もう少し書き込みをしたいと思う。

また、NO. 14 については、目標値を 5.0% と挙げていたところ、令和 3 年度で 2.6 という良い数値が出て来ているという捉え方である。

事務局より資料 1 に基づき説明（第 3 章から第 4 章・基本目標まで）

副会長

39 頁以降、第 4 章「施策の展開」、推進項目の表について、内容部分の文字間が非常に狭くて見にくい。また、基本目標の説明文も、文字間がすごく詰まっていて、申し訳ないが見ようという気にならない。たくさんの人にパブコメをいただくときに見やすい方が良いかと思うので、担当課の列を狭く、内容の列を広くして文字間を少し空けるなど、見やすくしてほしい。余白がないわけではないので、全体としてレイアウトを検討していただきたい。改行についても考えていただきたい。やはり「見たい」というものにさせていただくのが一番だと思う。

事務局

修正する。

副会長

1 点目、前回の会議で、第 3 章「計画の基本的な考え方」の内容について、「2 SDG s を踏まえ

た計画」より、ジェンダー平等という言葉が入っている「3 めざすまちの姿」を先に出してほしいと話した。先ほど、「SDG s が世界的なものなので、そちらを先に出す」と説明があったが、そもそもジェンダー平等という言葉が、「第4章 施策展開」の中に出てきていない。40 頁、基本方針 2、推進項目①「学校等における男女平等教育の推進」部分にジェンダー平等を入れ込んでもらいたい。そうならないのであれば、SDG s の項目は要らないと思う。学校では、「男女平等教育」より「ジェンダー平等教育」で進んでいると思う。SDG s のジェンダー平等を掲げてやっていくのであれば、「ジェンダー平等教育」としてもらえたらありがたいと思う。

加えて、41 頁にもどこかにジェンダー平等を入れていただきたい。推進項目②「男女共同参画に関する多様な生涯学習の機会の提供」の 2 段目についても、「家庭教育や地域の学び場におけるジェンダー平等教育の推進」としたら、丹波市は先に行っているという気がするのだが、いかがか。また、【市民・地域の取組】の○3 番目についても、「ジェンダー平等や人権に関することを家庭で話し合いましょう」としてはいかがか。第 1 回審議会で、「お子さんの方からジェンダーや L G B T についてどんどん言ってくる」という意見があったので、せっかくタイトルに「ジェンダー平等」と入れたのであれば、未来に向けての計画なら内容にも入れ込んでもらいたい。地域社会の部分に入れ込むのが難しいのであれば、学校教育は進んでいると思うので、そちらに文言を入れていただけたら嬉しい。

2 点目、40 頁、基本方針 2、推進項目①「学校等における男女平等教育の推進」の 2 段目の内容について、「ふるさとへの誇り愛着を育む教育に係る丹波市中高連携事業等」がわかりにくいので、説明していただきたい。中高連携事業等でなくて、ふるさと教育というのは小中高ですでにやっていると思うので、もう少しすっきりさせてもいいのかなと思った。

3 点目、これは皆さんにも問いかける。41 頁、推進項目②「男女共同参画に関する多様な生涯学習の機会の提供」の 1 段目の内容に、「女性のエンパワーメント」とあるが、これは「エンパワーメント」なのか「エンパワメント」なのか。私が学んでいる市民団体では「エンパワメント」である。「パワー」というのは力を与える感じがあるが、これは力を与えるのではなくて、力を引き出すという、自分の中にあるものを大事にすることを意味しているので、「エンパワメント」という表現している。公では「エンパワーメント」としているところが多いのだが、皆様の感覚を教えていただけたら嬉しく思うので、提案をさせていただいた。

4 点目、46 頁、基本目標 2、基本方針 3、推進項目②「男背の家事・育児・介護への参画促進」の 3 段目の内容について、「仕事と子育ての両立を支援するため、育児休業等が取得しやすい職場環境づくりに努めます。」というのは、市役所内ということか。担当課は職員課だが、「市役所内」という文言を入れておかないと、他の事業所からしたら、こんなことが決まったのかというようなことになるかと思う。

5 点目、同頁、推進項目③「多様な働き方に対する支援」の 3 段目、一番下の内容について、「地域での子育てに関する情報提供」では、「地域での」という表現を除いて「子育てに関する」だけでもいいのではないか。細かいが、この頁は文字数が多いので、表を整理していただけたらと思う。

6 点目、同頁、推進項目③の 1 段目、3 番目の内容について、認知症介護者のつどい「ほっと」は認知症の高齢者だけが対象なのか。「ほっと」という名称は出さなくても良いのかと思う。

7 点目、47 頁、【事業所の取組】の○5 番目、「管理職など」とあるが、「管理職登用等」ではないか。また、一番下の○「育児や介護をしながら働いている人が働き続けられる環境」は、「働いている人」というのがなくても良いと思う。「育児や介護をしながら、働き続けられる」の方が

文章がすっきりする。

8 点目、48 頁、基本目標 3、基本方針 1、推進項目①「あらゆる暴力への対策の推進」、2 段目「暴力の防止に向けた意識啓発」と、3 段目「中学生を対象にしたDV防止の啓発」の内容がかぶっている感じがする。3 段目で、デートDVについて言うなら 2 段目は「あらゆることについて暴力で解決してはいけない」という広い意味での暴力防止についての内容になるのでは。DV が二つ重なっているように思うので、検討していただきたい。

9 点目、基本方針 1 の説明「DV は犯罪となる行為も含む」というところだが、DV は犯罪なので、「DV は重大な人権侵害である」とすっきりした方が読みやすいのではないか。

10 点目、52 頁【市民・地域の取組】の最後の一番下の○、「地域で避難所運営等について」という文章がおかしいような気がするのだが、「地域で避難所を運営するときには」ではないか。もしくは、地域で避難所運営をしないところもあるので、「地域防災活動では女性や子育て家庭の意見を反映させた避難所運営について考えましょう」とするか。防災活動で女性や子育て家庭の意見は入れないということになるので、検討していただきたい。

11 点目、53 頁、数値目標の NO. 19、「L G B T」になっている。以前、「L G B T Q にしてほしい」と言ったときには要らないと仰っていたが、中学生の作文には「Q」が入っているので、是非「L G B T Q」にしていいただきたい。

12 点目、同じく数値目標の NO. 7、「女性委員を登用していない審議会等の数」とあるが、何個中の何個と報告書に入れないと、数字だけでは比率がわからない。目標値には入れなくてもいいと思うが、報告には入れていただけたらと思う。

委員

40 頁、基本目標 1、基本方針 2、推進項目①「学校等における男女平等教育の推進」について、「男女平等教育」を「ジェンダー平等教育」とするのは問題ないかと思う。

また、その 2 段目、「丹波市中高連携事業等」について、一般には馴染みがないと思うが、これは、高校生で課題探求ということで、地域発信しながらこういうことを地域おこしで取り組んだらどうか、ということを考えながら学習していくという経緯があって、市内にある 3 つの高校でやっている。中学生では、一昨年度辺りから、「アントレプレナーシップ教育」といって、起業家精神に学ぶということで、地域の何かを生かしてこういうことをやったらどうか、という、高校でいう探求学習と同じようなことをするようになってきた。そこで、内容の文中「教育に係る」とあるのだが、中学生に対して高校生がその年に自分たちが発表したことを、自分の母校に先輩として出向いて行って、中学生に発表するという、そういう事業である。「アントレプレナーシップ教育」には現時点で注釈が付いているので、「丹波市中高連携事業等」についても同じように注釈を付ければ読んでいただいてわかるのではないかと思う。

会長

ご指摘のとおり、注釈をつけていただきたい。これはタイトルのような形で鍵括弧をつけることはできるのか。名称といえるのか。

委員

そういう学習をするのは 2 年生主体で、今からやるのは 1 年生に一斉に 3 つの高校から来ていた

だいて話をしたという、そのことを指している。タイトルが決まっているということでもない。

会長

どこまでが事業名なのかがわかるような表現にしたい。必要に応じて注釈をつけて、本文は短くしていただきたい。

また、先ほど「学校等における男女平等教育の推進」を「ジェンダー平等教育の推進」に変更するというご意見があったが、条例と計画の名称との関係で、男女共同参画というのを全部ジェンダーには変えるのは難しい。しかし、「めざすまちの姿」で「ジェンダー」と入れていることに加え、SDGsにも使われて、だいぶ認識されて広がりつつある。せつかくこういった変化がある中で、それをこの計画で可能な限り表現していくということは必要だと思う。うまく入れられそうなところは、ご意見のあったように、基本目標1、基本方針2、推進項目①「学校等における男女平等教育の推進」中くらいか。

副会長

他は、無理やりいれると難しい。学校教育では、先ほどご意見があったように「ジェンダー平等」というのはもう中学生も使っていることなので、入れやすいのではないと思う。

37頁「5 体系」の中では「ジェンダー平等」という文言が「めざすまちの姿」だけに入っていて、38頁の項目には一言も入っていないので、どうなのかというところがある。

会長

表だけ見たら、「男女共同参画」と実際に出てくるのは基本目標1だけなので、それを全部「ジェンダー平等」としても良いのではないかと考えてしまう。施策の展開でどこまで書くかということだが、「男女共同参画」という文言は基本目標1が多く、基本目標2以降は説明の文章中中くらいか。

事務局

「ジェンダー平等教育」でも差し支えないのではというご意見をいただいたが、教育振興基本計画等との兼ね合いが出てくると思うので、教育部と調整し、次回会議までに確認を取ってもう一度提案させていただく。また、変えるまでには会長との協議はさせていただきたいと思うので、お願いしたい。

会長

かなり大胆な変更になると思うが、「めざすまちの姿」に書いてあるのでその整合性を持たせるのもひとつかと思う。

事務局

他にいただいたご意見について、文言が通じにくいところについては再度確認をしていく。また、担当課の事業ごとにそれぞれ推進項目があるが、再度、中身について確認を取って市民の方が分かりやすいようにということで、ご指摘いただいた部分を含め、全体的に確認を取りたいと思っている。

「エンパワーメント」については、事務局の意図としては公のものということで、「パワー」とさせていただきます。他の委員からもご意見をいただけたらと思う。

会長

「エンパワメント」と伸ばさないことにそういう意図が含まれているのを初めて知ったのだが、元の発音でそこまで伸ばすかというところもあるかもしれない。公の部分も確認をお願いできたらと思う。

事務局より資料1に基づき説明（第4章・数値目標、第5章）

会長

資料3、数値目標 NO. 10「女性の能力活用意識の割合」の説明で、活用意識の割合を測るために指標として意識の変化を聞いているのが気になる。もともと意識の高い人が参加している可能性もあるし、もともとそういう意識が高まっていれば変化が小さくなる気がする。どういう質問をするかはこれから考えることができるのだとすると、そもそも、能力活用意識そのものを全体的に測る指標を聞いて、その変化を言えば良いわけなので、変わったかどうかを調査で調べる必要はないのではないかと思う。むしろ経時的に測るのではなく、その講座に参加した人の、元々の意識と講座後の意識のギャップを見るだけになってしまう。元々測ろうとしている活用意識の割合を聞いても、参加者の意識が変わったかどうかという質問を指標として測るのは、項目の内容と噛み合わない気がする。活用意識とは何なのかというのはあるのだが、この指標を「意識の向上」ではなくて、例えば「あらゆることに活用できる可能性があると思っているか」でも良いかと思うので、「意識が変わったか」という測り方は変えた方が良いと感じた。

委員

資料1の53頁と資料3のNO. 20「自主防災組織の組織率」で、市内自治会数が異なっている。53頁の299自治会で合っているかと思うが。また、NO. 14「子育て施策の充実度」の目標値で、資料1では「令和6年度」と入っているが、資料3では入っていない。どちらが正しいのだろうか。

事務局

数値目標 NO. 20の市内自治会数について、現状は298自治会だが、来年度から299自治会になると聞いている。再度確認をとって、令和5年度からの自治会の数をしっかり記載する。

また、NO. 14については、令和6年度とつくのが正しいので修正する。

副会長

先ほども申し上げたようにNO. 19「性的マイノリティの認知度」で、表記をご検討いただきたいと思う。

また、NO. 20「自主防災組織の組織率」について、前回の意見に対して資料2で「組織率を上げることで、女性が参画する土台を作ります」と対応を示していただいているが、組織が増えて参加できる枠は増えるかもしれないが、そもそも女性登用というのを謳っていないと、自治会の3役で

固めようという考えで、男性が多くなってしまうような気がする。そこはくらしの安全課にもっと頑張ってもらっていて、組織を作って年に1回防災訓練をするだけではなく、そこに女性がどれだけ入っているかということはこの男女共同参画センターがしっかり見る必要があると思う。年次報告で、その組織に女性が何人いるかというパーセンテージを出していかないと数値は上がらず、作っただけで終わってしまう。国も、防災の分野にジェンダー平等と女性の視点をどんどん入れましょようとずっと言っているので、丹波市には先頭を切ってやっていただきたい。くらしの安全課とタッグを組んで取り組んでいただきたいのと、本当は、ここにも女性が全く入っていない自主防災組織をなくすという目標が欲しいところである。その辺りを意識しながら作っていただけるような啓発をしてもらえたら嬉しく思う。

もう1点、新規項目の NO. 4「講座参加者の学習の理解度」と NO. 10「女性の能力活用意識の割合」について、そもそも男女共同参画センターに来られること自体、意識が高いと思う。そこで満足するかしないかは、「来たけど自分の求めていたこととちょっと違う」など、その辺りの微妙な差である。来られること自体がある程度意識が高いので、コロナで人数の枠が大変だとは思いますが、例えば「講座の参加率を上げる」など、なにかもう少し違う指数の取り方がないかと考える。NO. 10については、就労支援や働き方の講座に来られた方は、「自分が何か始めたい」と来られていて、特に意識が高いのではないか。ボトムアップが望めないような数値かと思うので、新規項目として入れられた意図みたいなのを聞かせていただきたい。

事務局

第3次計画では、「女性の活躍推進に関する協定締結事業所数」が入っていたのだが、該当の事業が終了する。担当課から、新しい事業が始まると聞いているのだが、今この時点では数値目標に挙げられない状況にある。年次報告等にはその辺が具体的に挙がってくると思う。新規の項目については、参加者数という数が良いのかということと、来た人が意識の高い方ばかりではなく、そうでない人も興味を持って来てほしいと思っていて、先ほどご意見をいただいたように、期待が外れたと思われる方も実際にはあったりする。そこは我々講座を組み立てる側としても、ニーズに合ったような講座を作っていかなければならないという思いがあり、能力活用という表現をしている。アンケートの取り方にもよると思うので、もう少し具体的に何か挙げられるようなことがあれば思っているところではある。

副会長

講座に行くとアンケートは大体一緒である。働き方がテーマならアンケートでどういうことを聞きたいなど、欲しいアンケートの項目がなくいつも同じで、もったいない気がする。その辺りも工夫していただいたら嬉しく思う。

事務局

私も同じことを聞いているなと思う。継続して取りたい設問もあるので、今後、アンケートの取り方を考えていく。

4 今後のスケジュール

事務局

次回会議は、11月中旬を予定しているので、決まり次第、お知らせする。

また、意見シートをお配りしている。本日お話いただけなかったご意見など、何でもいただきたいと思っている。

5 閉会

副会長

今日の雨でやっと秋らしくなるようだ。また気温の差が激しいと思うが、気を付けていただくとともに、特にこの時期は、市内の車利用が増えている。色んなところでパトカーが止まったりしているので、交通安全には注意して、また来月お元気で出会えたら嬉しく思う。本日はご参加いただき感謝申し上げます。